

令和5年度 事業計画書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 はじめに(基本的な考え方)

いつの時代も子どもは、家族の幸せや社会の発展にとって、かけがえのない存在である。

一人ひとりの子どもは、その感性、興味、関心、能力のほか、家庭環境が異なっても、さまざまな体験を積み重ね試行錯誤を繰り返しながら自己肯定感を育み、やがて自立した個人として健やかに成長することが期待されている。

また、その発達段階に応じて、家族、学校の先生、同級生、クラブの仲間、地域の世話役などとの多様な人間関係を通して、思いやり・人権を尊重する心や態度など、社会性や豊かな人間性を育みながら、次代の担い手として自立・活躍が期待されている存在でもある。

子どもが活躍する将来の社会経済を展望すると、さらなる情報化とグローバル化に加え、国連で採択された「SDGs(2030年までに世界を変える17分野の開発目標)」をキーワードに、共生(多様性の尊重、ジェンダーの平等、異文化の理解、民族の共生等)、循環(リサイクル・脱炭素化の促進、地球温暖化・海洋汚染の防止等)など、大きく転換・再生を図る担い手が求められている。

しかし、現実的な子どもを取り巻く生活環境は、スマートフォンの急速な普及により、コミュニケーションの場を格段に広げている一方で、違法・有害情報による被害やSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)によるいじめやネット依存などの問題も指摘されている。

特に、令和2年1月に発生した新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、学校行事や部活動の制限、学校外で友人と遊ぶ機会の減少など、子どもの「非認知能力」、言い換えると「自己肯定感」「生きる力」などを育む多くの体験活動が制限されてきました。

一方で子ども会は、家庭や学校とは異なり、異年齢による多様な体験機会を提供し、子どもの健やかな成長に重要な役割を担っているが、少子化・核家族化やひとり親世帯の増加、背景にある都市化・情報化・高齢化の進展などが重なり合い、地縁による地域社会(共同体)の希薄化に加え、子ども会活動の担い手不足などの課題もあり、子ども会及び会員の減少傾向が続いている。

特に、新型コロナウイルス感染拡大により、野外体験活動・子どもまつりなどの縮小・中止、さらには子ども会自体の活動休止・解散など、これまでに類例を見ない状況に陥っている。

このような状況下、令和5年度は、地域住民が会長となって子ども会連合組織が設置された昭和48年度から50周年、社団法人化から30周年など、当連合会にとって大きな節目にあたる。

今後とも当連合会では、地域社会の実情や課題を踏まえつつ、時代・社会環境変化に柔軟に対応し、魅力的な研修・体験事業と法人経営の維持・安定化とのバランスを図りながら、子ども・保護者・行政・教育機関などから、より共感・信頼の得られるよう存在価値の向上に努めていく。

2 基本方針

定款第3条の目的をもとにしつつ、次のとおり、子どもが持っている力(感性・人間性・社会性・多様な能力)を育て伸ばすことで、次代の担い手として自立・活躍できるよう、その成長を支援することを基本方針として定める。(令和4年度の継承)

「札幌の子どもが自主的で創造性に富み、思いやりのある心豊かな人間性を育むとともに、社会との関りを自覚しながら、次代の担い手として自立・活躍できるよう、さまざまな体験・育成

事業などを通じて、子どもの健全育成を進めていく。」

3 重点施策

令和5年度は、未だウイズコロナ禍にあると想定され、これに対応した市財政支出の見直しにより、ジュニアリーダー研修業務委託費の大幅削減が想定されることなど、法人経営環境は、より一層厳しい状況が見込まれる。

当連合会としては、平成30年度から進めてきた法人経営基盤再生の取り組みを、より一層強化させるとともに、単位子ども会活動への多面的な支援(助成金・物品貸出・研修会など)を実施し、地域における体験活動等の再開・活性化に向けて取り組む。

また、引き続き、次代を担う子どもの自立・活躍を目指し、「SDGs」を基本テーマとし、教育機関、企業及び地域諸団体と協力連携を図り、魅力的な研修・体験事業の企画実施を推進させる。

これらの重点施策に基づく主要な事業は、「子ども育成事業・法人経営再生プラン」として取りまとめ、総合的な見直しを継続させる。

なお、新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、引き続き必要な感染防止対策に取り組む。

4 子ども育成事業及び法人経営再生プラン

(1) 「ジュニアリーダー養成研修事業」による地域活動等の担い手づくり

① ジュニアリーダー養成研修事業（市委託業務） 【継続・一部縮小】

ジュニアリーダー養成研修(多様性や主体性を尊重しつつ、円滑な集団活動を行うためのファシリテーターの役割や技術など)を実施し、研修登録者増を図る。

(2) 「子ども体験交流事業」による子ども健全育成(非認知能力向上の機会)

① 地域の教育機関や企業等との連携事業（市委託業務） 【継続】

「テーマ+遊び+学び」の枠組みで、教育機関・企業等との協力連携により、一步先行く魅力的な体験交流事業を企画・実施する。

② 全市の子ども同士の異年齢交流事業（市委託業務） 【継続】

少子化・核家族化などを踏まえ、「テーマ+遊び+子どもチーム」の枠組みで、異年齢で全市の子どもによる体験交流事業を企画・実施する。

③ 地域と連携した子どもの健全育成事業（市委託業務） 【継続】

地域の担い手(育成者等)と連携し、「テーマ+遊び+親子チーム」の枠組みで、基本となる協力連携の重要性を学ぶ体験交流事業を企画・実施する。

④ 子ども体験活動の場事業（Coミドリ助成事業） 【継続】

Coミドリ施設(子ども体験活動の拠点)で、子どもの自主性・創造性を重視したプレーパーク(冒険遊び場)、体験プログラムなどの体験事業のほか、市内のプレーパーク団体との協力連携の促進及び地域協働活動の担い手団体等との連携事業等を企画・実施する。

⑤ 子どもを育む職業体験事業（市補助金事業） 【継続・一部縮小】

次代を担う子どもの興味・関心を基調とし、普段は経験できない職業体験事業について、専門学校との連携事業に特化させて企画・実施する。

(3) 子ども会活動助成による子ども会・会員増加(公益法人としての役割)

① 地域における子ども育成活動の助成金支援等 【継続】

「子ども会体験活動助成事業」をはじめ、教材・用具等の貸出や研修会の開催など多面的な支援事業を実施する。

(4) 中長期的な法人経営の維持・安定化の推進

- ① 特定費用準備資金を活用した経常維持方策（公益目的事業会計） **【新設】**
☆ 北海道の最低賃金上昇に対応した事務局職員の給与改定額（積立金）
☆ 地域協働活動による防災・防火体験事業（積立金）

(5) 区支部・専門部の事業・運営の見直し

- ① 会費・安全共済会費（札子連収入分）の支部支援金への組替 **【財源整備】**
（市業務委託費の大幅削減への対応）
- ② 単位子ども会及び会員増加への働きかけ強化（団体・会員増加への対応）
- ③ 子どもゆめ基金活用等による体験事業（参加者負担軽減への対応：別記のとおり）

(6) 事務局運営体制・方法の見直し

- ① 運営体制
区支部事務局は、配属職員数の削減に対応し、週1回の閉局措置及び拠点区事務局の設定など、良好な職場環境を整えつつ、より効率的で円滑な運営に努める。
（市業務委託費の大幅削減に対応） **【職員数の削減・職場環境の改善】**
- ② 運営方法
☆ 各事務局からの電子書類を送受信できるクラウドサービス、全職員がオンラインで業務情報の共有化を図る職員ミーティングを継続させるとともに、新たに集合による職員ミーティングを定期的に行い、職員間で双方向のコミュニケーションを取るなど、良好な対人関係・職場づくりに向けた環境整備に努める。 **【職場環境の改善】**
☆ 札子連公式サイトを活用し、体験事業等の募集案内告知によるPR強化及び参加者の決定・連絡手続き等の円滑化などを実施する。 **【継続】**

5 公益目的事業別の計画概要

1) 体験交流事業

(1) さっぽろ夢大陸大志塾 **<札幌市委託業務：継続（回数削減）>**

[本部所管・区支部協力]

北海道開拓の村・市内青少年キャンプ場を活用し、異なった年齢・地域の子どもの交流・体験を通じ、積極性・協調性を育む事業を実施する。

- ☆ 開催期間・回数：令和5年9月 2回
- ☆ 参加人数：延べ120名 ※ 全市の小学2～5年生を対象
- ☆ 特別協力：一般財団法人北海道歴史文化財団（北海道開拓の村の施設管理者）

(2) 子どもまつり開催 **<札子連独自事業：継続>**

[区支部主催等]

各区支部の特色を生かし、区内の多くの子どもや地域住民が参加したくなる子どもまつり事業を開催する。各区支部の状況に応じた実施方法とする。

- ☆ 子どもまつり（区支部の主催：北区・厚別区・清田区・手稲区）
- ☆ 子どもまつり（区支部の共催・実行委員会等：中央区・東区・西区）
- ☆ 子ども遊芽カーニバル（白石区：実行委員会）

(3) 地域における体験交流事業 <札子連独自事業・札幌市補助金事業等：拡充>

[区支部主催等]

区支部の特性やネットワークを活かし、区民センター・小学校・地区会館等を活用し、地域における体験交流事業及び道内市町村との連携事業などを実施する。

また、新たに清田区支部では、独立行政法人 国立青少年教育機構の助成金事業「子どもゆめ基金」の活用を前提(令和5年5月に申請→9月に採択予定)とした「子ども体験塾」を実施する。(雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで1泊2日の自然体験事業)

実施方法は、各区支部主催のほか、区民まつりなどの実行委員会への参画事業とする。

☆ 体験活動・体験交流

(陶芸、防災、かるた大会、ドリーム号、ミステリーバス、レッツゴーさっぽろ)

☆ 居場所づくり関係 (工作・クラフト、クッキング)

☆ 野外活動 (収穫祭、冬の遊び、まちの灯り、子ども会学校、デイキャンプ)

☆ 他都市との交流、区民まつり及び地域のまつりに参画

(4) 地域と連携した子どもの健全育成事業

<札幌市委託業務：継続>

[本部所管・子どもいきいき部・育成者支援部協力]

(各区2回(4テーマ)実施)

さまざまな世代がともに一つの目的で活動することを通じ、お互いに協力すること、思いやることの大切さを学ぶきっかけづくりを目的に実施する。

具体的には、親子による「2024年 自分たちのまちのカレンダーづくり」を実施する。

参加者から提出された、今年目標、私たちのまちの好きなどころなどの4テーマの作品について、モザイクアートで西暦部分を図案化するもの。

実施にあたっては、令和4年度に引き続き、地域の大人(子ども会育成者)、小学校などのほか、区マスコットキャラクターの活用など、各区役所の協力連携を図る。

(5) 大学・企業・団体等との連携事業

<札幌市委託業務：継続>

[本部所管・区支部協力]

(12事業・90回実施)

令和4年度と同様に、「SDGs」を基本に多様な興味関心を喚起するテーマを設け、遊びの要素(おもしろさ・驚き・感動など)と学び(創造性・協調性・安全性等)を加えた体験事業を実施する。

この事業実施にあたっては、子どもに「一歩先行く体験」として、将来に有益な体験機会となるよう大学・企業・団体等との協力連携(特別協力)を図るほか、テーマに応じて集合体験のほか、自宅での事前・事後の学習・オンライン体験事業を効果的に組み合わせる。

(6) キャンプ場管理運営事業

<札幌市委託業務：継続>

[本部所管・区支部協力]

老朽化している青少年キャンプ場について、当連合会で施設・設備の小規模修繕を分担しながら維持管理を継続し、ジュニアリーダー養成研修や子どもの健全育成事業で活用するほか、中学校の炊事遠足、青少年育成団体利用を促進する。

☆ 青少年キャンプ場:西岡(豊平区)、小野幌(厚別区)、カッコウの森(手稲区)

(7) Coミドリ管理運営事業

<札幌市助成金事業：継続>

真駒内地区はもとより、南区・札幌市における「子ども体験活動の場」の拠点として貢献できるよう、当連合会のネットワークを活かして、多様な体験事業を実施する。

特に子供が遊ぶ居場所として、既存の冒険遊び場(グラウンド)、アート遊び場(体育館)に新設するスポーツ遊び場(体育館)におけるプレーパークの実施アートやのほか、季節イベントなどの「体験プログラム」を開催する。

また、市内プレーパーク団体との交流も兼ねたフォーラムの開催、地域活動団体との協力連携を図った体験事業などを実施する。

(8) 創設50周年記念 ～ウポポイ体験事業～ <札子連独自事業：新規>

[本部・専門部主催]

子どもの健全育成の観点から創設50周年の記念事業として、令和2年7月白老町に開設した「ウポポイ(アイヌ語でおおぜいで歌うこと)」の体験事業を実施する。

この「ウポポイ」は、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていく観点から、北海道の先住民族であるアイヌ文化の振興や普及啓発を目的に設置された民族共生象徴空間であり、共生社会の実現に向けた体験事業である。

(区支部単位：日帰バス1台→参加者 延べ400人)

(子ども300人、引率者100人) (9月・10月の2回に分けて実施)

2) 育成事業

(1) ジュニアリーダー養成研修事業 <札幌市委託業務：継続(回数削減)>

[本部所管・区支部協力]

「心とワザを磨こう!」をメインテーマに、学校・家庭・地域社会における集団活動で、状況に応じて多様な役割を発揮する、ジュニアリーダーを養成する。

☆ 基本研修

① ジュニアリーダー (養成～中級研修) : 30回 (1区3回、日帰り3回) (うち1回：青少年キャンプ場)

(養成:小学4年生・5年生 初級:小学6年生・中学1年生 中級:中学2年生・3年生)

地域における子どもの健やかな成長を育むため、異年齢で集団活動に必要な基礎的知識や技術を習得し、活動の中心となるジュニアリーダーを養成する。

特に、コミュニケーション、グループディスカッション、ワークショップ、ファシリテーション、プレーパークなどの考え方や方法を体験的に学び、実践的で質の高いリーダーを養成する。また、年度当初に小学校を通じ、養成研修生の参加募集を実施する。

② ジュニアリーダー (中級・上級合同研修) : 1回 (宿泊1回：青少年山の家)

③ ジュニアリーダー (上級研修) : 3回 (日帰り2回)

(宿泊1回)

これまでのジュニアリーダー研修で得た知識及び技術を更に向上させ、集団活動における高度な指導力及び豊かな創造力を持つリーダーを育成する。

☆ テーマ研修 (日帰り：防災体験 ジュニアリーダー及び小学生1区2回)

(日帰り：避難所体験 ジュニアリーダー及び中学生2回)

日常生活に密接な関係のあるテーマ(防災と地域)に沿って知識や技術を学ぶとともに、異なった学年が一同に集まって学ぶ避難所生活体験を通じて、リーダーを育成する。

❖ 小学生:20回(防災と地域) * 区民センター:午前の部・午後の部

❖ 小学生・中学生:各2回(避難所生活体験) * Coミドリ:午前の部・午後の部

(2) リーダー派遣研修事業 〈札子連独自事業：継続〉

※ 第52回 指定都市子ども会ジュニアリーダー熊本大会への派遣

8月18日(金)～20日(日) 国立阿蘇青少年交流の家 ※ 2泊3日

〈全子連・指定都市子連・熊本子連の共催事業:3名(事務局1名を含む)〉

(3) 育成者支援事業 〈札子連独自事業：継続〉

[本部事務局・育成者支援部・子どもいきいき部との連携事業]

各種研修会に表彰者等を派遣し、子どもに関する諸課題や子ども会の先進事例を学び、支部事業等に還元する。(区支部育成者の派遣は中止する。)

◇ 第56回 全国子ども会中央会議(札幌市で開催)

10月27日(金)～29日(日) 京王プラザホテル、かでの2・7 ※ 2泊3日

※ 新型コロナ感染拡大の影響により、令和2・3年度と札幌市で開催予定であったが、令和5年度に延期されたもの。

◇ 第59回 指定都市子ども会研究協議会(仙台市で開催)

10月21日(土)～22日(日) ホテル仙台ガーデンパレス ※ 1泊2日

また、区支部役員・単位子ども会育成者・修了生等を対象に、子どもの健全育成に関する講習会等を開催するほか、各区支部では実情に沿った研修会を開催する。

(4) 職員研修事業 〈札子連独自事業：継続〉

研修・体験事業のスキルアップを図るため、外部講師を招いてプレーパーク・ファシリテーション研修等のほか、ハラスメント、情報ネットワーク・セキュリティ等に関する職員研修を実施して、業務の質の向上及び安心安全な業務実施に努める。

このほか、特定業務に関連した防災士資格認定講習会、防火管理者講習、チェーンソー講習などを受講させる。

※ 令和4年度実績:1回開催(話し方講座)

(5) 単位子ども会等への支援事業 〈札子連独自事業：継続〉

子ども会体験活動助成事業(令和5～8年度限定)

新型コロナ感染拡大等の影響を踏まえ、会員組織である子ども会活動の再開・活性化を図るために助成事業を実施する。

助成金額は、各区の子ども会数に応じて1団体15千円平均、上限20千円とする。

☆ 令和4年度実績:1,060,000円(予算額1,500,000円)

(6) 子ども会活動表彰事業 〈札子連独自事業：継続〉

札子連として、子ども会及び育成者組織として7年以上、子ども会の育成者として10年以上、活動を継続した団体・個人に対し、表彰状並びに記念品を贈呈して表彰する。

また、全国子ども会連合会には20年以上、指定都市子ども会育成連絡協議会には15年以上、継続して活動してきた団体・個人に対して、審査会を経て表彰する。

(7) 普及啓発事業 〈共同募金会助成事業・札子連独自事業：継続〉

[さっぽろっ子部・本部・支部]

参加募集や事業案内は、PRチラシや札子連公式サイトを活用し、ホームページ訪問者数の増大を図る。

また、各種の事業報告等は、「さっぽろっ子」及び各支部広報誌で分担して実施する。

- ☆ 札子連公式サイトの累積訪問者数(セッション者数)
 - ※ 令和4年度実績 延べ72,000人(見込み)
 - ※ 令和3年度実績 延べ65,000人
 - ※ 令和2年度実績 延べ46,100人
 - ※ 令和元年度実績 延べ33,412人
- ☆ さっぽろっ子(年1回発行:3月、発行部数15,000部)
- ☆ 区支部の広報誌(年1回又は2回発行)

(8) 子ども会安全会事業

<札子連独自事業：継続>

子ども会の活動・事業に安心して参加いただくため、子どもや育成者に安全共済会への加入を促進するほか、全子連との業務契約により、共済金・見舞金業務等を実施する。

また、10年間ごとに無事故であった子ども会に賞状・記念品を贈呈する無事故褒賞事業を行う。